

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年1月23日】第152号



## 企業からの応援

農大稲花小における体験型の学習の多くは、東京農業大学の教職員や関係の研究者などのご協力を得て行っています。それだけでなく、留学生を含む東京農業大学の学生・大学院生、校友(東京農業大学の卒業生)からの応援もありがたくお受けしています。また、東京農業大学と様々な連携のある企業や団体にもお力を頂いています。

3学期がはじまったところですが、次年度の稲花タイムの準備も、すでに進めています。今月に入ってから複数の企業の方々とお目にかかり、授業へのご支援について相談する機会を持ちました。企業の方々からの新しい情報には、教育に反映できる大きなヒントがたくさんあります。そして、子どもたちには農大稲花小でなければできない学びを提供したいと考えています。最適な題材を、最適な方法で授業として展開していくために、教員も日ごろの勉強が欠かせないと強く感じます。

## オランダに因んだ給食

農大稲花小では、海外の食生活にも目を向けることを願って、タンザニアの料理、イギリスの料理というように、国がテーマの献立が登場する日があります。1月19日(木)の給食は、オランダに因んだ給食で、トマトのスープ(Tomaten soepen)やチーズパンを味わいました。

オランダは、榎本武揚公が26歳で留学した国でもあります。江戸幕府初の海外留学生に選ばれた榎本武揚公は、当時としては最新の海軍の技術、法律、農業なども学んで帰国し、それらが明治維新後の活躍につながりました。また、この時、フランス語、ドイツ語、ロシア語とともにオランダ語も身につけたのですが、農大稲花小の教育理念「冒険心の育成」は、榎本武揚公がオランダ語で書いた「冒険は最良の師」の言葉に基づいています。図書室の前には、その言葉が飾られています。農大稲花小では、未知なる新しい世界に挑む気骨と主体性をもち、本気になって取り組み、科学的・実践的に学ぶ人間として成長できるよう、毎日の教育を行っています。

## 英語の学習

2月に行う学習発表会に向けて、既習の内容を踏まえ、あるいは新たに、英語の歌、さらに文章の暗唱など子どもたちが取り組んでいます。子どもたちが美しい発音で、そしてすぐに英文を記憶してしまうことには驚きます。

本校では英語については毎日、アプリをつかって15~20分程度、家庭で復習することを求めています。学校では子どもたち一人ひとりのアプリの利用時間などを把握することができますが、毎日よく復習している子どもと、アプリ利用時間からみて復習が大幅に不足している子どもがいるように、その取り組みに差があるのは残念ながら事実です。4か国語をマスターした榎本先生に負

けないよう、子どもたちも英語の勉強に励んでほしいと願っています。保護者の皆様にも、家庭での復習について、励ましていただきますようお願いいたします。

## 第一回学校説明会

中学校・高等学校そして大学は入学試験のシーズンですが、小学校入試は秋が本番。農大稲花小でもすでに昨年の11月に入試が終わっています。4月からの入学者を迎えるための準備も、はじまっています。そして今度は、1月20日(金)の夕方に1回、21日(土)の午前に2回の合計3回、今秋に行われる入学試験のための学校説明会をオンラインで行いました。各回300名程度を定員としたものですが、各回ともたくさんの方々にご参加いただきました。

私立小学校の入学試験を考える時、学校の教育理念とご家庭の教育方針が一致していることが一番大切です。学校の方針を理解し、学校と一体となってお子様を育てようとするご家庭に、ぜひ受験していただきたいと考えながら、学校の紹介などをいたしました。また、本校は36人の学級編成で、子どもたちが友だちと一緒に切磋琢磨し、そして仲良く学ぶ学校でもあります。体験学習も多くあります。学校の特徴と、お子様の特性が合っているかも、お子様が幸せに学校生活を送るために大切なポイントであると考えています。学校の特徴を踏まえ、本校の求めるお子様および保護者様像についてもお伝えしました。

幸いなことに、在校生保護者様には、新しく作られた小学校に対してたくさんのご協力を頂いています。この新しい学校を作る力を、これからも保護者の皆様に頂戴したいと思っています。

なお、次は4月から5月の間に、今秋の入学試験について概要をHPで発表する予定です。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子